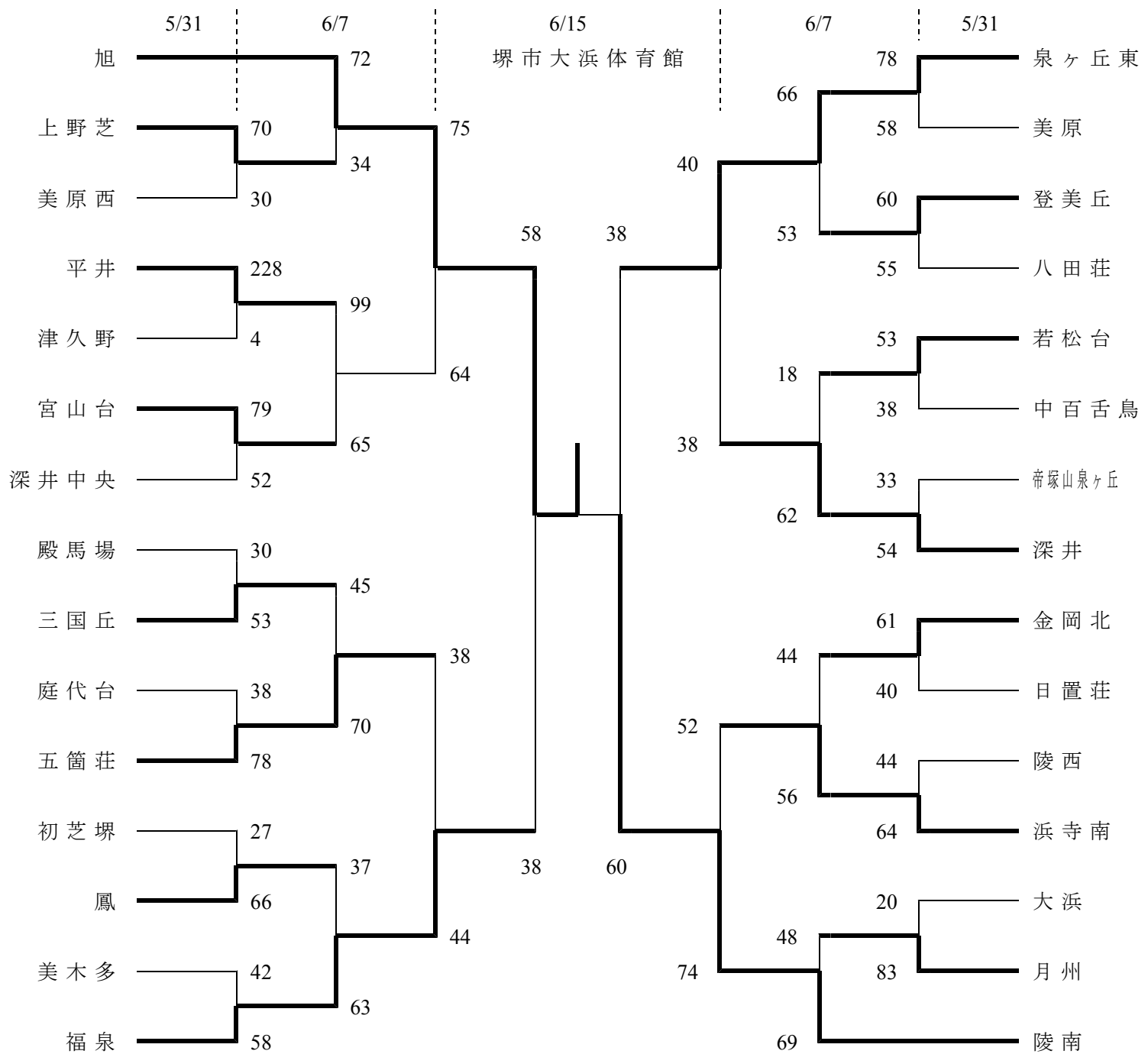


2008年度堺市種目別優勝大会

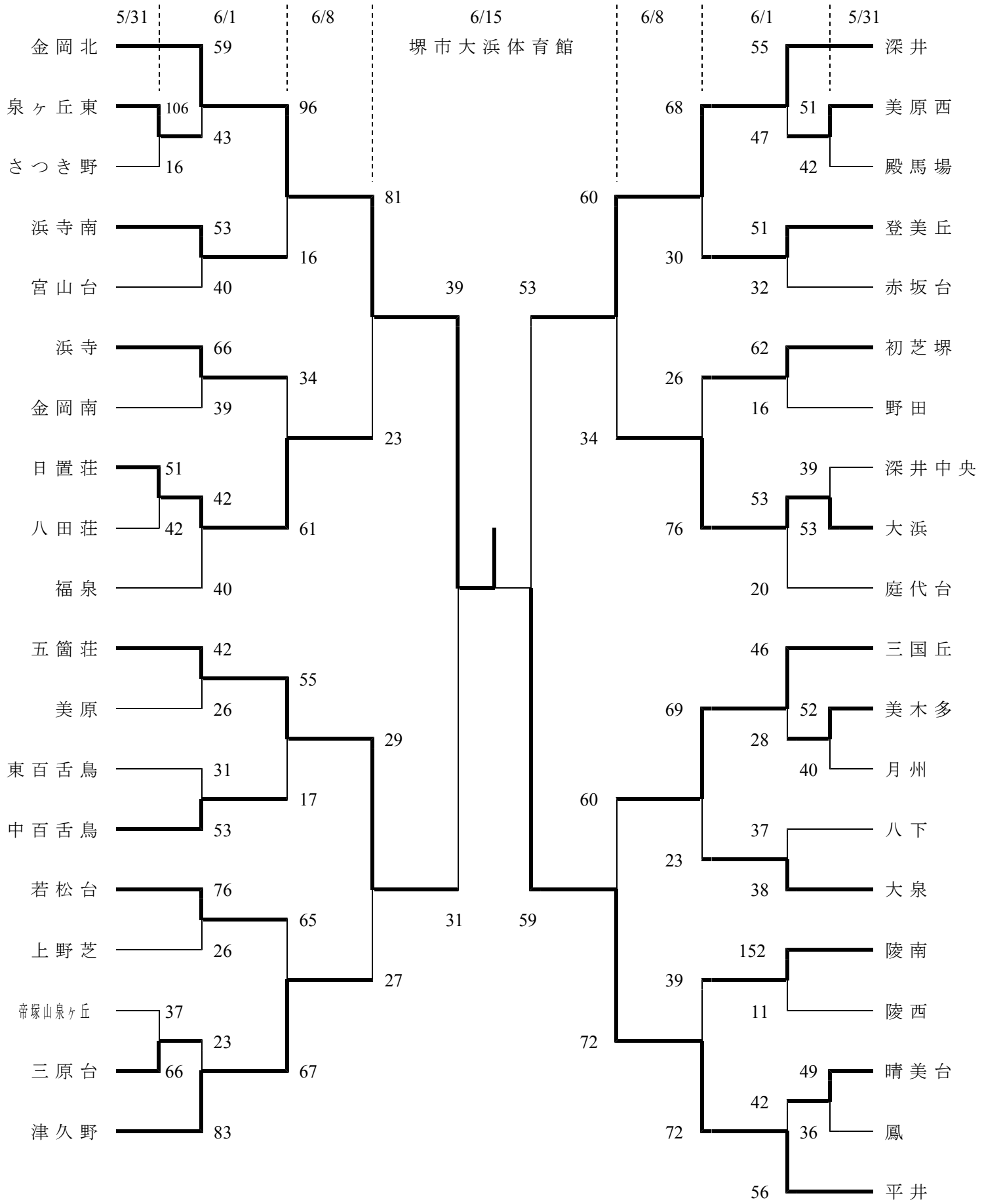
男子の部



決勝

旭	51	-	45	陵南
	15	1Q	12	
	11	2Q	11	
	10	3Q	16	
	15	4Q	6	

女子の部



決勝

金岡北	70	-	57	平井
	13	1Q	15	
	14	2Q	10	
	20	3Q	19	
	23	4Q	13	

男子決勝戦評 旭 51 - 45 陵南

主審：佐藤 副審：福嶋

旭 ④ ⑪ ⑭ ⑰ ⑱ ハーフコートマンツーマン
陵南 ④ ⑤ ⑦ ⑨ ⑩ ハーフコートマンツーマン

1 Q

互いにハーフコートマンツーマンで始まった決勝戦。1 Q 序盤、旭は⑰のレイアップシュートを皮切りに持ち味のゴール下シュート、3 P とテンポ良い攻撃を展開。逆に陵南はイージーミスが多く、⑤を使っての U C L A で活路を見出そうとするが、なかなかシュートまでたどりつけない。それでも旭の5ファウルによるフリースローを着実に決め、3点差で1 Qを終える。

2 Q

2 Qに入ると、陵南のカバーディフェンスが機能し始め、旭はカットインからのレイアップシュートを簡単に打つことができなくなった。すると、ゲームの流れが徐々に陵南に傾き、④のシュートで一時逆点に成功。しかし、その後ターンオーバーを連発させた陵南は自ら攻撃のリズムを崩してしまい、ここから一進一退の攻防が続いた。26 - 23の旭リードで前半を折り返す。

3 Q

試合の流れが変わりだしたのは3 Qの中盤。陵南が連続3 Pなどで再び逆点。④を中心にパスがよく回り、⑦のジャンプシュート、⑨のポストプレーなどリズム感のある攻撃でリードを保つ。旭は④が立て続けにジャンプシュートを決め、なんとか離されまいとオールコートプレスディフェンスを仕掛けるが、陵南は④がそれをものともせずきっちりボールを運び、ゲームの流れを譲らない。

4 Q

3 Qでリードを奪った陵南であったが、旭は4 Q開始直後にバスケットカウントで再び同点に追いつくと、そこから⑰、⑱のゴール下シュートなどで一気に得点を重ねて逆点に成功。陵南は④が孤軍奮闘するも、終盤の勝負所でイージーミスが多発したり、足をつって交代を余儀なくされる選手が相次いだりで、力を出し切ることができなかった。結果、旭が緊張感のある接戦をものにした。

(草島、眞壁)

旭 22 - 22 教員チーム
10 前半 7
12 後半 15

女子決勝戦評 金岡北 70 - 57 平井

主審：梅尾 副審：岡崎

金岡北 ④⑤⑥⑦⑧ シュートイン後、1-1-2-1ゾーンプレスから1-2-2ゾーン

平井 ④⑤⑥⑦⑧ スリークォーターからマンツーマンプレス

1 Q

金岡北は④、⑤が3Pを狙うが入らない。残り7分、⑥のリバウンドシュートでゲームが動き出す。平井は⑦のインターセプトからの速攻、⑤の3P、④→⑦の合わせで得点を重ね、対する金岡北は⑦、⑨の3P、⑤のリバウンドシュート、⑦の力強いドライブインで対抗。13-15で平井リード。

2 Q

金岡北は⑥をコートに戻し、1-2-2ゾーン。平井は落ち着いて攻め、タイミングの良いパス回しから⑦が連続してハイポスト、アウトサイドからドライブで崩す。残り6分、13-17と4点差をつけるが、金岡北も⑤の3P、左サイドからのドライブインと攻めた。残り4分、⑦、⑧のリバウンド連取から⑦が決め、20-19と逆点。その後、金岡北は⑨、⑩を、平井は⑪をコートに入れ、互いに流れをつかもうとするが、一進一退の攻防が続く。平井は④、⑦、⑪のドライブインで金岡北のファウルをさそい、突き放そうとするが、金岡北も⑤の1対1、さらには前半終了間際には⑦の超ロングシュートが入り、27-25として前半を終えた。

3 Q

金岡北1-2-2ゾーン、平井マンツーマンでスタート。後半開始早々、平井は金岡北のゾーンをタイミングの良いパス回しから崩しにかかり、シュートまでいくが、金岡北⑥のブロックショット、さらに⑥のドライブインで29-25となる。対する平井は速攻から⑪のローポストからのシュートなどで対抗し、再び一進一退の攻防が続く。残り3分、金岡北は⑦、⑧が連続してリバウンドを取り、最後は⑤が決め36-31と突き放しにかかる。平井はたまたまタイムアウト。ところが流れが変わらず、⑤の3P、ドライブイン、④の3Pと攻めたて、残り2分で45-35と金岡北10点リード。ここから平井の反撃が始まる。速攻から④の連続得点、④→⑧、⑦→④の合わせで47-44と3点差までつめよる。

4 Q

平井⑧のアウトサイドシュートで1点差。ところが金岡北も平井ディフェンスのチェックが甘くなったところを④、⑤の3P、⑤、⑥のドライブインなどで突き放しにかかる。平井も④を中心に思い切り良くシュートを打つが決まらず70-57でタイムアップ。

両チームともにオフェンスへのトランジションの速さ、1対1の力強さ、シュートの思い切りの良さは素晴らしい。が、それらを止められたときの次のプレイのためのストップとピボット、また、周りの合わせに課題が残った。ディフェンスではボールがあるときとないときの1対1、ボックスアウトの徹底を再調整し、夏の選手権大会での上位進出、近畿大会出場を期待したい。

(市原、石山)